【第8号】

自分らしく生きる

多くの高齢者は、人の世話にならず自立して生活することを望んでいますが自分の思うようにならないのが常です。在宅・施設という枠を超えて、人はどのように人生の最終章を生きているのかをシリーズでご紹介いたします。

息子のご飯をつくらなきゃ！

練馬区　橋本きみさん（87歳）
要介護2　アルツハイマー型認知症

猛暑の昼過ぎ、橋本きみさん宅を訪ねた。同席してくださったのはご長男の妻、恵子さん。

最近まで三男と同居していたが、認知症が進むきみさんとの暮らしが困難になり、近くに住む恵子さんがきみさんの家へ、三男は長男宅に避難。

現在週４回デイに通う。デイには仕事のように出かけていくが、帰ってくると「息子のご飯をつくらなきゃ」とご飯を炊く。「息子の面倒を見るのが、義母の生きがいなんです」と恵子さん。

昔話を繰り返しながら「世の中にそんな悪い人はいないのよ！」とおおらかに笑う

きみさんは女学生の頃両親を亡くし、兄夫婦の世話になった。結婚後は３人の息子を育てながら、姑、小姑、大姑など大家族の中で、企業戦士の夫に代わり、「嫁」として奮闘！「だから私、要領がいいの！」とお茶目な笑顔を見せるきみさん。その要領と愛嬌の良さで、独身時代の青年団から、結婚後は町会の婦人部、フラダンスサークルと、付き合いも広く、今もデイでその力を発揮して楽しく過ごされているようだ。

デイサービスでもお料理

「今以上の暮らしは望まない。今が一番！」と言い切るきみさんだが、夕方になると淋しくなり愚痴っぽくなるという。認知症の症状がだんだん進むきみさんを見て、息子さんたちからは「在宅はきびしい・・・」の意見も出るようだが、「こんなに家が好きな義母だから、自宅で暮らし続けられるように」と恵子さん。「姑の夢を叶えるために、私これからも頑張ります！」

きみさんの今の楽しみは、毎週末息子さんたちと通う居酒屋。「雨が降っても嬉しそうに出かけるんですよ」と半分呆れ顔の恵子さんをよそ目に「いいお酒はおいしいのよ！」とニコニコ顔のきみさんの目が輝いた！

デイサービスでのイベントの写真を見ながら「この人はだれ？」「この方はほら！」恵子さん（左）と